

【研究発表3】

一関市ホッパの会の活動報告

—地域と共にふるさとの歴史文化を学ぶたたら製鉄—

いわてたたら研究会・ホッパの会 勝部 欣一

1. はじめに

一関市の砂鉄川源流部内野地区は、18世紀前半以降、伊達藩最大の砂鉄採取地であり、大東町内には江戸時代から明治初期にかけ「たたら製鉄」が行われた焔屋（どうや）遺跡が確認されている。また、一関市舞草地区は、平安時代に製作された日本刀の源流とされる「舞草刀」発祥の地とされ、地元刀匠・鉄山士信吉（菅原平、昨年98歳逝去）氏が自ら砂鉄を採取してたたら製鉄を行い、その復元に尽力していた。平成10年、それを知った全校20数名の内野小学校で、「郷土の歴史～鉄の文化を知ろう～“たたら製鉄”」として、総合学習の課題に設定した。平成11年、総合学習を支援するため、地元住民でホッパの会（会長・刀匠菅原平）を設立。（砂鉄採掘跡をホッパ山といい、ホッパの会と命名）

3年生以上の児童が、ホッパの会や父母の支援を得て、5～8月にかけて、粘土採取～煉瓦作り～たたら炉づくり～砂鉄取り～木炭づくり～たたら製鉄～と一連の学習を行い、その活動は新聞テレビ等のマスコミにも取り上げられ、小規模校でもやればできるという大きな自信となった。岩手の山間小集落地で、「たたら製鉄」実践を通して積み上げてきた活動概要を紹介します。

2. 沿革

平成10年	内野小学校「ふるさと学習」として“たたら製鉄”について学習
平成11年	ホッパの会（刀匠菅原 平会長：会員10名）結成、第1回たたら製鉄
平成15年5月	学習館建設に着手（建物は篤志会員による寄付・奉仕作業）
平成16年6月	「砂鉄川たたら製鉄学習館」完成
平成17年5月	新「ホッパの会」を設立（会員：43名）
平成18年10月	第6回全国「たたらサミット in 岩手」で、内野小児童が実践発表
平成19年5月	「砂鉄川たたら製鉄学習館」ホームページ開設
平成20年4月	「古技術（たたら製鉄）伝承を通じて青少年の育成の貢献に対し、国際ローター-第2520地区よりガバナー特別賞を受賞（岩手大東ローター